第十一講・文学的文章⑦

◆筆者の気持ちをとらえる

随筆（ずいひつ）文は、体験したり見聞きしたりしたことにもとづいて、考えたことや感じたことを、自由な形で書いたものです。

形式が自由なために、文章には筆者独特のものの見方・感じ方が表れやすく、また、表現にも独特のものが表れます。これらのことをふまえて筆者の気持ちを読み取っていきましょう。

(1) 文章を書くきっかけとなったことがらをとらえる

どんなことがらがもとになって文章が書かれているかをおさえましょう。

(2) 心情を直接表す表現に注意する

「悲しい」「腹（はら）が立った」「うれしくなった」「喜びがこみあげてきた」など、心情を直接表したことばや表現に注意しましょう。

(3) 情景や行動などの表現から気持ちを考える

気持ちを直接言っていなくても、情景や行動、そのほかさまざまなことがらの表現から、筆者の気持ちをうかがうことができます。

(4) 筆者のものの見方や考え方が表れていることばに注意する

「うれしい」「悲しい」などの心情だけでなく、筆者独特のものの見方や考え方がわかる部分にも注意しましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学校六年生の時だった。家庭科で調理実習の時間というのがあり、「目玉焼き」を習った。五～六人のグループごとに、コンロが一つ、フライパンが一つ。ジャンケンか何かで順番を決め、一人ずつ挑(ちょう)戦(せん)する。残りの四～五人から見守られる中、手際(てぎわ)よく焼きあげるのはなかなか難(むずか)しい。モタモタしているうちにフライパンから煙(けむり)がもうもう上がったり、白身がチリチリに焦(こ)げてしまったり……。そのたびににぎやかな笑い声。うまくいけば拍手喝采(はくしゅかっさい)。だんだん自分の番が近づいてくると、ドキドキする。

私(わたし)は、小さい時から手先がほんとうに不器用で、①この日は朝から憂鬱(ゆううつ)だった。うまく焼けるだろうか、という以前の大問題――うまく割(わ)れるだろうか、という不安を胸に抱(いだ)きつつ、登校した。

すき焼きなどで生卵を割るとき、私はよくぐちゃっと黄味をつぶしてしまう。もちろん、すき焼きなら支障(ししょう)はないのだが、目玉焼きの場合はちょっとまずい。ちょっとどころか、*1致命的(ちめいてき)である。ぐちゃっとなったらどうしよう……それぱっかり気にしていたら、昨日は卵の夢を見てしまった。

不幸なことに私のグループは人数がやや多く、最後の私がもじもじとフライパンの前に立つころには、他グループからの冷やかし組も集まってきて、すごい*2ギャラリーになってしまった。

卵を割りそこねた子はまだいないらしいことが、さらに*3プレッシャーをかける。すっかり舞(ま)いあがってしまった私。ええいとばかり卵をフライパンのふちに打ちつけ、そのままぐしゃっと握(にぎ)りつぶすような格好になってしまった。

わあっと湧(わ)きあがる声。こういう時、子どもは残酷(ざんこく)である。ピーピーと口笛を吹(ふ)く子もいれば、手を打ってはやす子もいる。その後どんな目玉焼きができあがったのか全く覚えていない。見届ける前に私の目玉がうるんでしまっていた。

家に帰ってこの「事件」のことを母に話している

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

と、また涙（なみだ）が出てくる。

「落ち着いてやれば何でもないことなのに、②ばかね、ほら、やってごらん」

　笑いながらフライパンと卵を出してくる母。うわっもう見たくもないと思いながら、一緒（いっしょ）にコンロの前に立った。おそるおそる卵をフライパンのふちにぶつける。ぺちっと殻（から）にひびが入るだけで割れなかった。ぺちっぺちっぺちっ……うーん。もどかしくなっていきなり力をこめた瞬間（しゅんかん）、ぐしゃっ――またやってしまった。流れだす黄味を、絶望的な思いで見ている私に、明るく母が言う。

「さあ、おいしい炒（い）り卵を作ろう」

　フライ返しを菜箸（さいばし）に持ちかえさせられて、ほら、ほら、早くかきまぜて、と急（せ）かされる。

「このへんでおしょう油を入れると、いい香（かお）りがするのよ」

　できたての、ほわほわの、炒り卵。――おいしかった。負け惜（お）しみではなく、目玉焼きよりもずっと。なんだか元気が出てきて、もう一度やってみようかな、と思う。

「フライパンを火にかけているとあせっちゃうから、まずお茶碗（ちゃわん）に割ってごらん」

　不思議なほど、楽な気持ち。今度は、うまくいった。

「もしここで失敗したら、オムレツにしちゃえばいいの」

　ありあわせのハムとミックスベジタブルを混ぜてその場で母が焼いてくれたオムレツ。これがまたおいしかった。夢のように。

　思えばあれが、母と一緒に台所に立って何かを習った最初のことだった。今でも生卵を割るときは、家庭科室での光景がふっと頭をよぎる。幼（おさな）い心にうけた傷（きず）は深い。が、一方でこのできごとは、料理に興味を持つきっかけにもなった。③卵一個で母が見せてくれた魔法（まほう）。

（俵万智（たわらまち）『りんごの涙』）

*1致命的＝ここでは、取り返しのつかない失敗。
*2ギャラリー＝見物人。
*3プレッシャー＝気持ちのうえでおしつけられること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　この文章を内容や時間のうえから大きく三つに分けるとすると、二つ目と三つ目のまとまりはどこから始まりますか。それぞれの初めの五字を書きぬきなさい。

二つ目

三つ目

問二　――線①「この日は朝から憂鬱だった」とありますが、どのような気持ちがあったから「私」は憂鬱だったのですか。次の□にあてはまることばを、文中から十六字で書きぬきなさい。

調理実習で目玉焼きを作るときに、生卵を□

問三　調理実習で目玉焼きを習った日に、「私」が泣いたことが書かれている一文を文中から二つさがし、それぞれの初めの五字を書きぬきなさい。

問四　――線②「ばかね、ほら、やってごらん」とありますが、母はどのような気持ちでこう言ったのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　失敗した理由がわからず、あきれる気持ち

イ　そんなこともできないのかと、腹立（はらだ）たしい気持ち

ウ　むすめの悲しみを理解して、一緒に悲しむ気持ち

エ　だいじょうぶだと、むすめをはげます気持ち

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　――線③「卵一個で母が見せてくれた魔法」とありますが、どのようなことを「私」は「魔法」といっているのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　生卵を割るのが苦手だった「私」に、生卵を割るこつを短時間で教えてくれたこと

イ　卵料理だけは失敗してもだいじょうぶだということを、「私」に楽しく教えてくれたこと

ウ　卵なんてもう見たくもないと思っていた「私」に、料理に興味を持つきっかけを作ってくれたこと

エ　調理実習で失敗して傷ついたことなどたいしたことではないと、「私」に思わせてくれたこと

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　文学的文章⑦

一題目

問一　〈二つ目〉　家に帰って
〈三つ目〉　思えばあれ

問二　うまく割れるだろうか、という不安

問三　見届ける前
家に帰って　（順不同）

問四　エ

問五　ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。